

サステナビリティ

CSR管掌メッセージ

将来のあるべき姿に向かって



取締役常務執行役員
CSR管掌
小山 俊也

今回の中期経営計画の策定では、帝人グループが「未来の社会を支える会社」となるため、SDGsが目指す将来の姿から課題を捉え、重要社会課題（マテリアリティ）を特定しました。帝人グループが貢献できる社会ニーズは何か、帝人グループの事業にどのような機会とリスクがあるかを分析し、社外の有識者のご意見も取り入れながら、取り組み方針やKPIを経営戦略に統合しています。

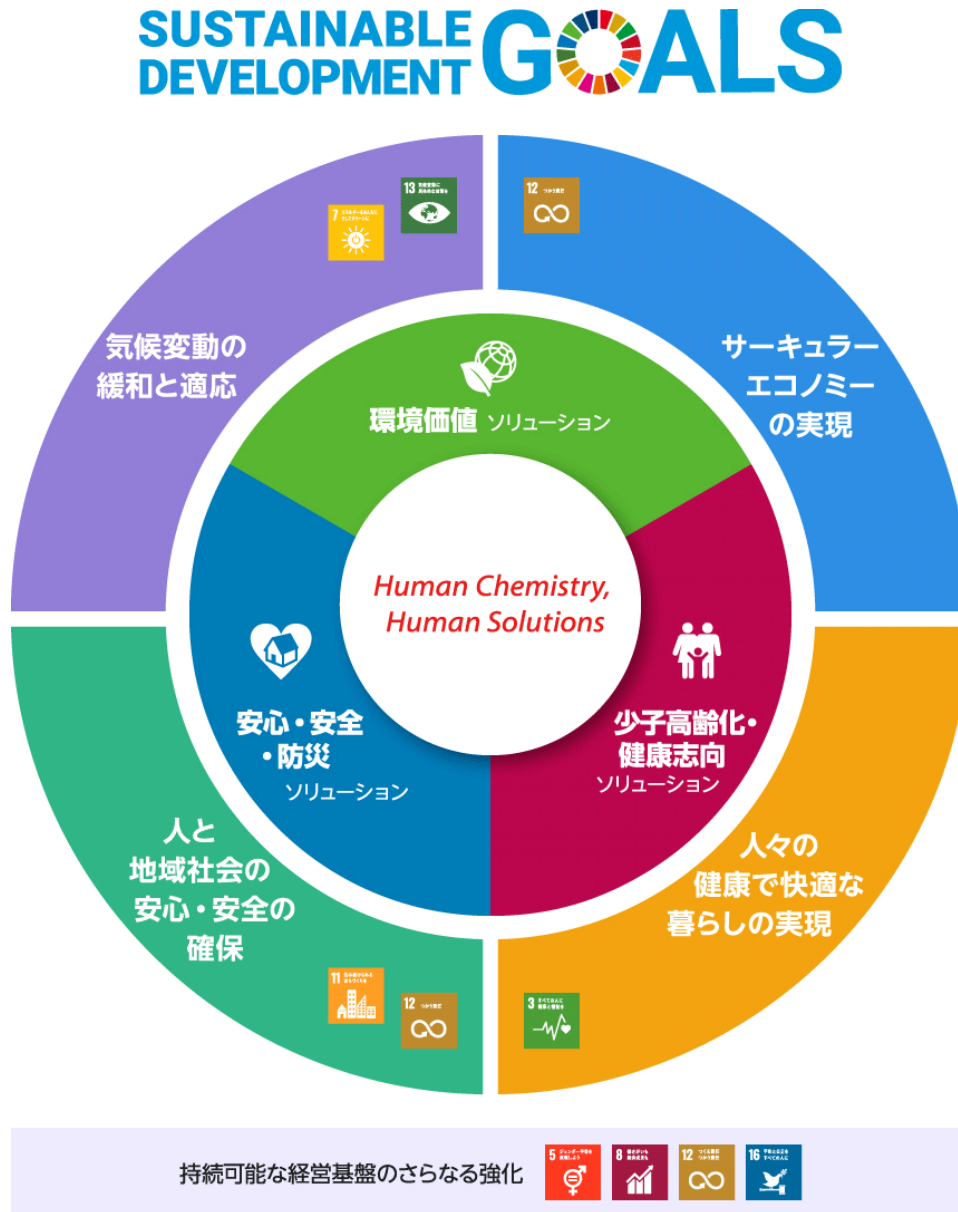
私たちはそれぞれのマテリアリティに対し、事業活動で価値を創出し、課題解決に貢献することはもちろん、事業活動が社会に与える負の影響をなくす、あるいは最小化していく努力を続けます。化学メーカーはともすると存在自体が環境に負荷を与えかねません。だからこそ、環境への負荷を減らすことは会社の存在意義につながると考えます。また、事業が存続するための経営基盤をより強固なものにすることで、社会とともに成長することを目指します。

今後はより一層、社員一人ひとりが今取り組んでいることの意義を理解し、誇りを持って仕事に取り組むことが重要になります。全社のCSR思考の浸透に対する施策にも力を入れ、グループ一丸となって長期ビジョンの実現を目指します。

サステナビリティ

サステナビリティ方針とSDGs

帝人グループは、以下の取り組み方針のもと、社会課題解決に向け、人を中心に3つのソリューション（1.環境価値、2.安心・安全・防災、3.少子高齢化・健康志向）による価値を社会に提供し、持続可能な社会の実現に貢献します。



取り組み方針

私たちは、持続可能な社会の実現に向けて、人を中心に考え、Quality of Life を向上させる革新的なソリューションを提供していくとともに、事業活動に伴う環境、社会への負の影響が最小限となるよう努力します。

地球に	 環境価値ソリューション 気候変動の緩和と適応やサーキュラーエコノミーの実現など世界的な地球環境目標達成に貢献する製品・サービスを提供
社会に	 安心・安全・防災ソリューション 災害、事故などのさまざまなリスクから生命と暮らしを守る製品・サービスを提供
人に	 少子高齢化・健康志向ソリューション あらゆる年齢の人々の健康的で快適な生活を支える製品・サービスを提供

CSRの基本方針

CSRの基本方針を下記の通り定めています。

基本的には長期方針としていますが、中期タームで具体的列挙課題等の見直しを行っています。

CSRの基本方針

1. 基本姿勢：事業と社会の持続可能な発展

環境・社会・ガバナンスなど企業の社会的責任に関わる重要課題（マテリアリティ）に、高い感度を持ち適確かつ積極的・能動的に取り組み、「未来の社会を支える会社」として事業と社会の持続可能な発展を目指す。

2. 事業を通じ社会に貢献

環境、安心・安全・防災、健康など、社会が解決を必要とする問題を能動的に把握し、事業を通じた持続可能な解決策を提供する。

3. 多様なリスクに適確に対応

企業倫理・コンプライアンス、環境負荷、品質保証、労働安全など事業活動に関わる多様なリスクを適確に管理し、リスク発現時にも強靱な回復力を発揮する。

4. 社会と対話し継続改善

積極的に社会と対話し、これらの認識と実践を継続改善していく。同時に「サステナビリティ先進企業」との社会的認知をグローバルに獲得・維持することに寄与する。

グローバル・コンパクトへの参加

帝人（株）は、取締役会の決議により、国連が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に2011年3月から参加しています。「国連グローバル・コンパクト」は、各企業が持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りで自発的に参加するという取り組みです。参加を表明した企業は、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」に関する10原則を支持し、実践することが求められます。

帝人グループは、グローバル企業として質の高いCSR経営を実践するために、2011年度、「国連グローバル・コンパクト」の原則を踏まえて「企業行動規範」「企業行動基準」を見直し、事業活動において、人権尊重などの基本原則を実践する方針を明確にしました。さらに、社会環境の変化に応じて、「国連SDGs」や「国連グローバル・コンパクト」などへの対応を明確にするため、2018年6月に「企業行動規範」「企業行動基準」を改定し、新たな行動規範の中で「Integrity：私たちは、法令規則を遵守し、人権および地域コミュニティを尊重して、誠実に行動します」を定めまし。また、2019年3月に帝人グループ人権方針を制定し、人権の尊重は企業として果たすべき重要な社会的責任であるとの認識のもと、事業活動の全てにおいて、あらゆる人権侵害に直接的に関与しないだけでなく、社外の関係者を通して間接的にも加担しないよう努めることを宣言しました。

* 国連グローバル・コンパクト：1999年1月、世界経済フォーラム（ダボス会議）の席上で、コフィー・アナン国連事務総長（当時）が提唱した企業の自主行動原則。

国連グローバル・コンパクトの10原則

人権

- 原則1 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである
- 原則2 企業は、自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである

労働

- 原則3 企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持すべきである
- 原則4 企業は、あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持すべきである
- 原則5 企業は、児童労働の実効的な廃止を支持すべきである
- 原則6 企業は、雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである

環境

- 原則7 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持すべきである
- 原則8 企業は、環境に関するより大きな責任を率先して引き受けるべきである
- 原則9 企業は、環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである

腐敗防止

- 原則10 企業は、強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである



サステナビリティ

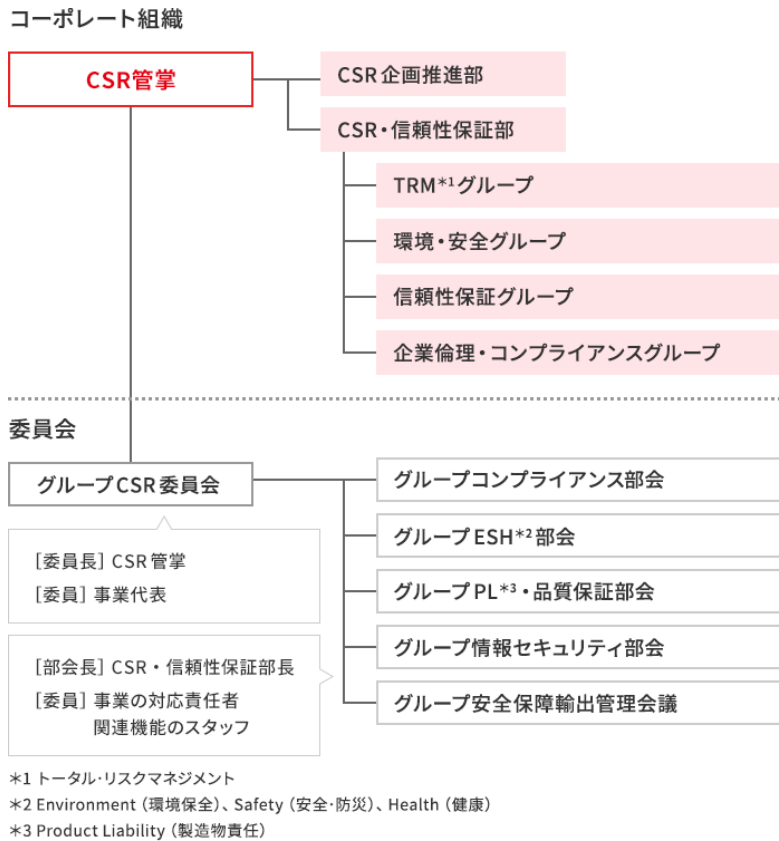
マネジメント体制と推進活動

帝人グループにとってのリスクと機会を整理し、持続可能な経営基盤を確立してCSR活動を推進しています。

マネジメント体制

帝人グループは、事業と社会の持続可能な発展を目指し、事業と一体化したCSR活動を推進しており、CSR活動の責任者としてCSR管掌を定め、強力なリーダーシップを発揮しています。

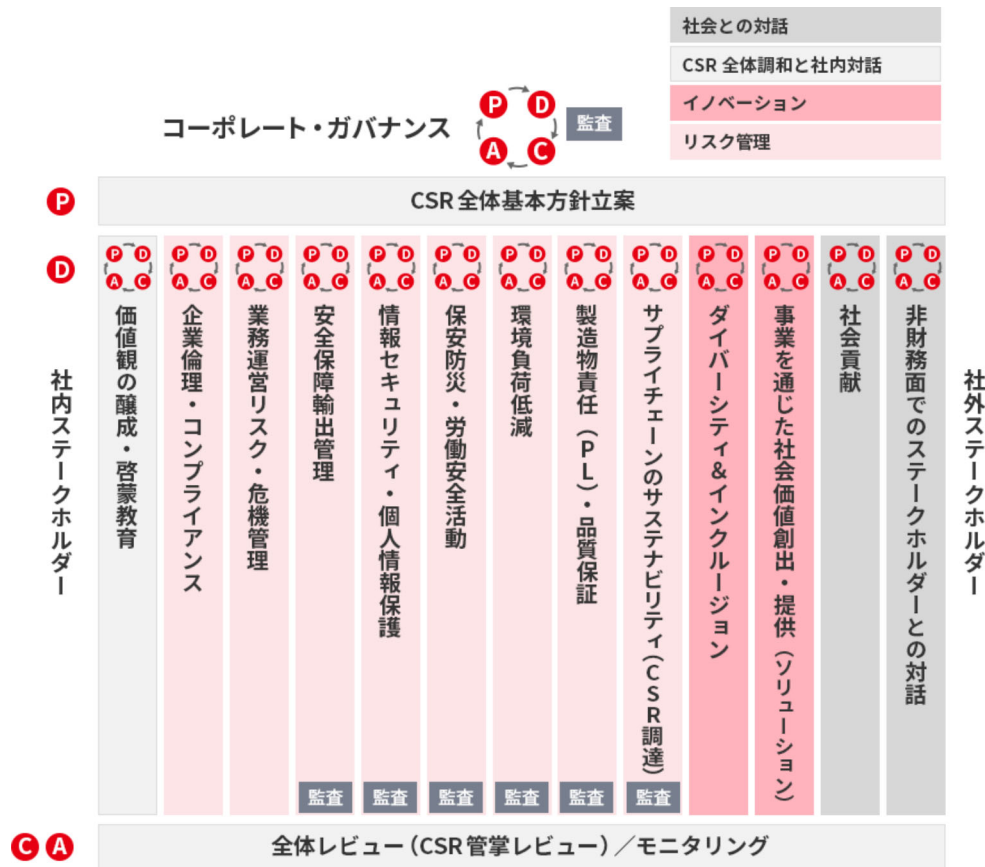
CSRの基本方針や戦略については、グループCSR委員会で議論の上、CSR管掌が社内外の環境監査や内部監査結果などを総合的に勘案して経営会議体に提案し、同会議体にて審議・決定しています。



推進活動

持続可能な社会の実現に向け、帝人グループにとってのリスクと機会を整理し、持続可能な経営基盤を確立してCSR活動を推進しています。CSR活動をグループ全体で統合的、効率的に進めるため、CSR管掌の下、重要なCSR課題ごとに主管部署・担当組織を定め、中長期および単年度の計画 (Plan) を立てることで、実行 (Do)、評価 (Check)、改善 (Action) のPDCAサイクルを回し、継続的な改善・向上を図っています。

CSR活動のPDCA



グループCSR委員会

帝人グループでは、年2回、CSR管掌を委員長とするグループCSR委員会を開催しています。

<議題>

- グループのCSR重要課題への対応状況、目標達成に向けた進捗の共有
- グループのCSR重要事項に関する課題抽出と対応策の提案

2019年度は、「中期経営計画2020-2022」に織り込まれるSDGsへの取り組み方針の共有と、人権尊重、公務員贈賄防止、CSR調達活動などの重要課題について議論しました。

グローバルCSR会議の開催

2019年10月8日、オランダ・アーネム市内に、本社および各主要グループ会社のCSR担当者が集まりグローバルCSR会議を開催しました。CSR管掌の下、CSR中期計画を再認識するとともに、創業100周年を機に改定された新しい行動規範の精神を帝人グループ共通の価値観として、企業倫理ハンドブックやビデオ教材などを通して全世界の役職員に浸透させていくという方針を共有しました。

また、反贈賄や人権尊重など、グローバル規模で対応が問われるコンプライアンス活動を推進するために、グループ内部通報規則を新しく定めてリニエンシー制度と監査役への通報ルートを設置したことを周知したほか、各国のCSRトレンドについての情報共有も行いました。



CSR管掌レビューの結果（法令違反および事件・事故の有無）

帝人グループでは、事業グループおよびグループ会社におけるCSR活動について、CSR管掌によるレビューを実施しています。このレビューでは、各事業グループおよびグループ会社のCSRの重要課題への対応状況を確認するとともに、事業グループおよびグループ会社が提出するコンプライアンス・リスクマネジメント活動調査票に基づき、活動の実績と重大な法令違反および事件・事故の有無を確認しています。

これまで、CSR管掌レビューは、2月に開催していましたが、その指摘事項を4月から始まる次年度の計画に反映させるため、年度途中の10月に変更しました。

2019年10月のCSR管掌レビューにおいて、法令違反および事件・事故に関するもので重大案件はありませんでした。

従業員意識調査アンケートの実施

帝人グループでは、「行動規範」を含む理念体系に照らして、従業員の認識と行動意識の実態を把握し、今後の浸透策を検討するため、「従業員意識調査アンケート」を実施しています。

このアンケートは、2017年度まで国内グループ会社全従業員を対象に実施してきた「CSR意識調査アンケート」を、グローバル全従業員に展開したものです。新しい「行動規範」の価値観をもとに、企業理念・ブランドステートメント、倫理意識、従業員満足度、ダイバーシティなどのCSR全般の意識調査を含む設問となっており、各回答をスコアリングし5段階で判定することで、CSR思考浸透度を評価しています。

2019年度は、アンケートの実施を見送り、新中期経営計画に基づく目標値の再設定およびグローバル展開をする上での運営・システムの見直しを検討しました。アンケートは2021年度から再開する予定です。

外部からの評価

SRIインデックスへの組み入れ状況（2020年8月現在）

帝人グループは、これまでのESGへの取り組みと、情報開示における透明性を評価され、代表的なSRI指標である下記のインデックスに継続して組み込まれています。

SRI（社会的責任投資）インデックスへの組み入れ

- 「Dow Jones Sustainability Indices」
- 「FTSE4Good Index Series」
- 「Ethibel Investment Register」



GPIFの4つのESG指数すべての構成銘柄に採用

- 「MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数」
- 「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」
- 「FTSE Blossom Japan Index」
- 「S&P/JPXカーボンエフィシエント指数」



注 MSCIインデックスへの帝人株式会社の組み入れおよび帝人株式会社によるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社による帝人株式会社へのスポンサーシップ・宣伝・販売促進を企図するものではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびMSCIインデックスの名称ならびにロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

ESGへの取り組みが優れている企業として、2つのプログラムに選定

- なでしこ銘柄2020
- 「健康経営優良法人ホワイト500」



サステナビリティ

マテリアリティとKPI

帝人グループの5つのマテリアリティと、重要指標および目標値を紹介します。

帝人グループのマテリアリティ

マテリアリティは、長期ビジョン「未来の社会を支える会社」を実現するために帝人グループが優先的に取り組む重要な社会課題です。「中期経営計画2020-2022」では、世界的な社会課題とSDGsが掲げるゴールを踏まえ、自社にとってのリスクと機会を整理し、2020年度以降の経営課題として取り組む5つのマテリアリティを特定しました。

マテリアリティとSDGs

マテリアリティ	主な取り組み	関連SDGs
気候変動の緩和と適応	環境価値ソリューション（軽量化等気候変動の緩和） 安心・安全・防災ソリューション（気候変動への適応）	 
	事業活動に伴う温室効果ガス排出削減	
サーキュラーエコノミーの実現	環境価値ソリューション（リサイクル等）	
	資源有効活用・廃棄物削減	
人と地域社会の安心・安全の確保	安心・安全・防災ソリューション	 
	環境汚染防止・化学物質管理	
人々の健康で快適な暮らしの実現	少子高齢化・健康志向ソリューション	
	従業員の健康・満足度向上	
持続可能な経営基盤の更なる強化	コーポレート・ガバナンス	   
	企業倫理・コンプライアンス	
	ダイバーシティ&インクルージョン	
	情報セキュリティ・個人情報保護	
	保安防災・労働安全活動	
	製造物責任(PL)・品質保証	
	サプライチェーンのサステナビリティ（CSR調達）	

マテリアリティの詳細情報はこちら

[気候変動の緩和と適応 >](#)

[サーキュラーエコノミーの実現 >](#)

[人と地域社会の安心・安全の確保 >](#)

[人々の健康で快適な暮らしの実現 >](#)

[持続可能な経営基盤のさらなる強化 >](#)

マテリアリティ特定プロセス

帝人グループは、社会課題を幅広く把握・整理し、帝人グループにおける重要度とステークホルダーへの影響度の観点から重要課題の分析・抽出を行い、CSR管掌が外部有識者と対話した上、最終的には経営会議で帝人グループのマテリアリティを特定しています。

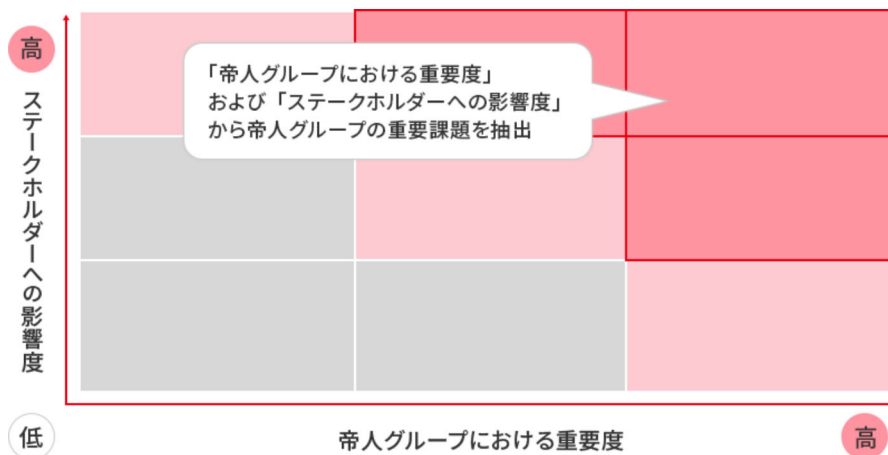


STEP1 課題把握・整理

SDGsを始めとする社会における課題のトレンドを広く把握、整理

STEP2 マテリアリティ分析

社会課題群について、帝人グループにおける重要度とステークホルダーへの影響度を分析し、それぞれを軸とする2軸平面にマッピング。

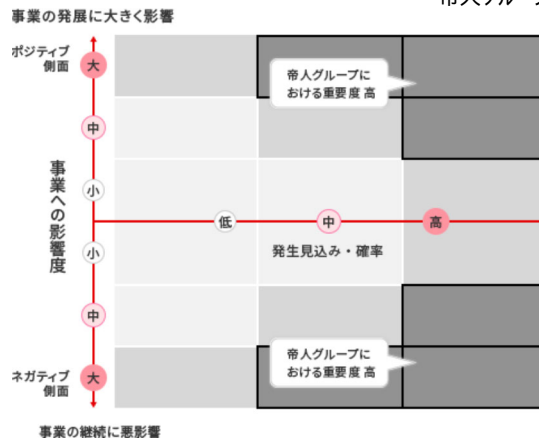


ステークホルダーへの影響度（縦軸）の判定方法

ステークホルダーを、「株主・投資家」「社員」「顧客」「サプライヤー」「地域住民」に分類し、社会課題ごとに、各層のステークホルダーの立場からみて相当に関心があると推定されるか、それほど関心がないと推定されるかを判定し、ステークホルダーへの影響度を決定。

帝人グループにおける重要度（横軸）の判定方法

事業への影響度（ポジティブ側面・ネガティブ側面の双方を考慮）と、発生の見込み・確率の両面から、帝人グループにおける重要度を決定。



STEP3 重要課題抽出

STEP2で分析した課題群から、帝人グループにおける重要度とステークホルダーへの影響度が特に高い課題（図中の赤線で囲んだ部分）を重要課題として抽出。

STEP4 外部有識者とのダイアログ

帝人グループのマテリアリティの特定プロセスと抽出課題について、外部有識者と対話を実施。

実施内容

マテリアリティの特定プロセスと抽出課題についてのダイアログを2019年10月に実施し、外部有識者に幅広い見地からご意見をいただきました。

事業領域とソリューションの連動が企業価値を高める



富田 秀実氏
ロイドレジスタージャパン株式会社 取締役 事業開発部門長

SDGsを軸にマテリアリティを整理するにあたり、それぞれの事業活動の結果として3つのソリューションがあり、それがどう社会に貢献するのを見せられると、ストーリー性が高まると考えます。また、ひとつの素材や事業を、複数のソリューションにオーバーラップさせることで、より広い範囲で企業価値を高めることができるのではないのでしょうか。SDGsに対応することでどんなビジネスチャンスが生まれるのか、社員一人ひとりが理解することも重要だと考えます。

次の100年に向けて、未来からのバックキャストが重要



伊澤 健氏
コモンズ投信株式会社 取締役会長

長期投資家の立場から見ると、企業がESGやSDGsに取り組む意味は、長期的・持続的な価値創造のためであるといえます。既存事業の積み重ねと未来に対するコミットメントからの逆算が重要です。「何をすべきか」だけでなく、「なぜそうするか」を考え、次の100年を描いた上でバックキャストも進めてほしいと思います。事業環境の変化を捉え、これまでの成功体験の外にどれだけセンサーを張れるかも今後ますます重要になるでしょう。

気候変動に対する長期的な価値創造を期待



後藤 敏彦氏

グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンボードメンバー
NPO法人サステナビリティ日本フォーラム代表理事

TCFDへの支持表明は短期的視点でも評価できます。一方、ビジョンや戦略の策定においてはより長期の視点を持ち、創業150年後のありたい姿からバックキャストする形で2030年の目標を定めると良いでしょう。企業トップが方向性を示すことで、CO₂などを削減するためにどうすべきか、社員からもさまざまなアイデアが出ると思います。企業として生き残っていくためには、気候変動に対しても価値創造の観点から考え、取り組むことが重要です。

過去に開催した主なダイアログ

- コーポレート・ガバナンス対談（2018年度）（PDF：868KB） 
- ダイバーシティ&インクルージョンの推進（2017年度）（PDF：776KB） 
- マテリアリティの取り組み（2016年度）（PDF：498KB） 
- CSR調達（2015年度）（PDF：561KB） 
- マテリアリティの特定（2014年度）（PDF：556KB） 
- 女性活躍のその先へ 真のダイバーシティとは（2013年度）（PDF：4.58MB） 
- 「アラミド繊維のグローバルリーダー」としての責任とは（2012年度）（PDF：12.17MB） 
- 災害時のCSRを考える（2011年度）（PDF：5.05MB） 
- 中国での環境取り組みはどうあるべきか（2010年度）（PDF：3.11MB） 
- よりよい在宅酸素療法をめざして（2009年度）（PDF：2.6MB） 
- 「エコサークル®」のさらなる拡大をめざして（2008年度）（PDF：3.15MB） 
- 環境配慮設計ガイドラインの運用（2007年度）（PDF：2.2MB） 
- 「エコサークル®」の推進（2006年度）（PDF：3.08MB） 

STEP5 マテリアリティの特定

経営会議において審議・確認し、「帝人グループのマテリアリティ」を特定。
2019年12月の経営会議において、現在の5つのマテリアリティを特定しました。

KPIと目標

帝人グループが新たに設定したマテリアリティごとのKPIと目標は下表の通りです。

2015年度に特定したCSRマテリアリティに対するKPIから更新したもの、今回新設したものはご参考欄に記載しています。

マテリアリティ凡例：

①気候変動の緩和と適応 ②サーキュラーエコノミーの実現 ③人と地域社会の安心・安全の確保 ④人々の健康で快適な暮らしの実現 ⑤持続可能な経営基盤のさらなる強化

マテリアリティ	KPI		目標		ご参考	
①②③④	「3つのソリューション」売上高比率		2030年度までに	全売上高の75%	新設	
①	CO ₂ ^{*1} 削減貢献量 ^{*2}		2030年度までに	「削減貢献>総排出」達成	新設	
①	気候変動 (CO ₂ ^{*1} 排出量)		2030年度	2018年度比20%削減(総量目標)	更新	
			2050年度	実質ゼロ実現	更新	
②	水		2030年度	2018年度比30%改善(淡水取水量売上高原単位)	新設	
②	埋立廃棄物量		2030年度	2018年度比10%改善(埋立廃棄物量売上高原単位)	更新	
③	有害物質		2030年度	2018年度比20%改善(有害化学物質排出量売上高原単位)	更新	
⑤	ダイバーシティ&インクルージョン					
	役員 ^{*3} ダイバーシティ	女性役員数		2030年度	10人以上	更新
		非日本人役員数		2030年度	12人以上	更新
	女性活躍 重点目標 ^{*4}	日本	管理職数	2030年度	300人以上	更新
		米国	上級管理職数 ^{*5}	2030年度	10人	新設
		欧州	グローバルコア人材数 ^{*6}	2030年度	10人	新設
		中国	上級管理職数 ^{*5}	2030年度	12人	新設
ASEAN		上級管理職数 ^{*5}	2030年度	8人以上	新設	

*1 CO₂以外に、メタン、一酸化二窒素を含む

*2 当社製品によるサプライチェーン川下でのCO₂削減効果を算出したもの

*3 取締役、監査役、グループ執行役員員の合計

*4 地域別の課題に応じて設定(中国・ASEANは2020年9月設定)

*5 グループ会社社長を含む上級管理職

*6 既に相当数存在する管理職からグループ執行役員候補として選抜・認定された人材

サステナビリティ

ソリューションと価値創造

強みを活かした3つのソリューション提供により、新たな価値を創造し、社会に提供していきます。

ソリューションと価値創造

帝人グループには「変革と挑戦」のDNAが受け継がれています。100年という歴史において、その時代時代の課題解決に挑み、数々のソリューションを提供してきた私たちの現在の目標は、持続可能な社会の実現に貢献すること。そのために、「環境価値ソリューション」「安心・安全・防災ソリューション」「少子高齢化・健康志向ソリューション」の3つのフィールドで、社会が必要とする新たな価値の創造に挑んでいきます。また、そのための土台となる経営基盤のさらなる強化と、リスクへの適確な対応にも一層注力していきます。


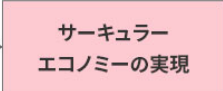
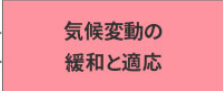
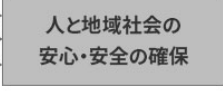
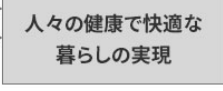

価値創造概念図

マテリアリティ	気候変動の緩和と適応	サーキュラーエコノミーの実現	人と地域社会の安心・安全の確保	人々の健康で快適な暮らしの実現
社会ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ●モビリティ軽量化、効率化 ●クリーンエネルギー普及 	<ul style="list-style-type: none"> ○製品長寿命化、省資源 ○サーキュラーエコノミー構築 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災・減災 ●災害・犯罪・紛争被害低減 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康維持・増進 ○患者さんのQOL向上 ○医療費抑制

社会課題に対するソリューションの提供

	 環境価値ソリューション		 安心・安全・防災ソリューション		 少子高齢化・健康志向ソリューション	
①機会創出 製品・サービス例	マテリアル <ul style="list-style-type: none"> ●軽量化素材・部材 ●バッテリーセパレータ ●水素パイプライン ●水素タンク 	<ul style="list-style-type: none"> ●アスベスト代替素材 ●高性能タイヤ補強材 ●リサイクル素材 ●バグフィルター 	<ul style="list-style-type: none"> ●防護衣料 ●高機能繊維補強材料 	繊維・製品 <ul style="list-style-type: none"> ●機能性インテリア製品 ●高付加価値衣料製品 	ヘルスケア <ul style="list-style-type: none"> ●医薬品 ●在宅医療機器 ●機能性食品 	
	IT	<ul style="list-style-type: none"> ●IT基盤 	<ul style="list-style-type: none"> ●安否確認サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域医療連携システム 		
②リスク低減	温室効果ガス排出削減	資源有効活用 廃棄物削減	環境汚染防止 化学物質管理	従業員の健康・満足度向上		
③経営基盤強化	技術基盤・人材・ガバナンス・CSR・ダイバーシティ&インクルージョン					

課題解決に貢献する提供価値

ソリューション	提供価値	製品・サービス例		
 環境価値 ソリューション	製品の長寿命化、3Rの促進で、サーキュラーエコノミーの構築に貢献 ■高耐久・高品質素材による製品の長寿命化、シェアリング (Reduce、Reuse) の促進 ■リサイクル技術の開発・提供を通じたパートナーシップによるバリューチェーン全体での資源循環性 (Recycle) の向上	●高性能タイヤ補強材 ●リサイクル素材	 サークュラー エコノミーの実現	
	エネルギーの効率化・クリーン化で、気候変動の緩和に貢献 ■高機能素材・部材によるモビリティの軽量化・電動化 ■水素社会インフラに不可欠な製品による社会の脱炭素化	●軽量化素材・部材 ●バッテリーセパレータ ●水素パイプライン ●水素タンク		 気候変動の 緩和と適応
	クリーン技術で、地球環境汚染の防止・浄化に貢献 ■ナノレベルの微細技術を活用したフィルタリングなどによる大気・水域への汚染物質、マイクロプラスチックなどの流出防止と浄化	●アスベスト代替素材 ●バグフィルター ●環境エンジニアリング		
高機能素材やIoTの活用で、安全性・強靭性を備えた社会の構築に貢献 ■高耐久素材とIoTの活用による自然災害被害の軽減・迅速な復旧 ■高耐熱・高耐久素材とIoT活用による火災、交通事故、犯罪などからの人体・生命の防護	●高機能繊維補強材料 ●雨水貯蔵ブロック ●安否確認サービス ●防護衣料 ●シートセンサーメンブレン	 人と地域社会の 安心・安全の確保		
せんいの方で、より快適な暮らしの実現に貢献 ■革新的な技術開発による「快適な衣類」「快適な住空間」「快適な移動」の具現化	●機能性インテリア製品 ●高付加価値衣料製品 ●カーシート地 ●電車シート ●自動車用吸音材		 人々の健康で快適な 暮らしの実現	
 少子高齢化・ 健康志向 ソリューション	医療・健康サポートを通じて、人々の健康維持・健康寿命の延伸に貢献 ■画期的な医薬品・医療機器による治療水準向上と患者生活支援 ■ICT活用による医療従事者支援と地域連携支援 ■機能性食品や睡眠サポートによる健康水準向上	●医薬品 ●在宅医療機器 ●機能性食品 ●地域医療連携システム ●病院向けシステム		

「3つのソリューション」売上高

2030年度グループ目標

3つのソリューション全社売上高比率を75%以上

「3つのソリューション」売上高統計データ

